

子どもたちが喜びました、おすすめですよ！

境谷小学校 おはなしの会 のはらクラブ 佐藤洋子

春、新学期、新しい一年生が小学校に入学してくると、毎年4月の参観日の数日後に教室に訪問して朝の読書タイムに挨拶と共に絵本を読みます。ここ数年、毎年同じ本を使っています。

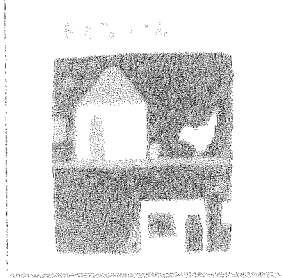
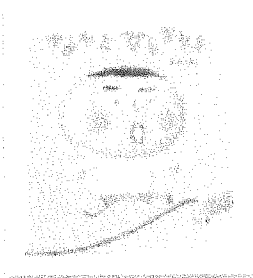
*最初が肝心、仲良くしましょうねと、無理なく笑顔を振りまいて。

「なわとびしましょ」 「おとなりさん」

長谷川義文
学習研究社

きしらまゆこ
BL出版

*主人公の気持ちと一体になれる
「おがわのおとをきいていました」



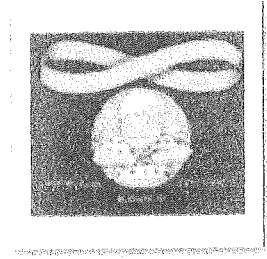
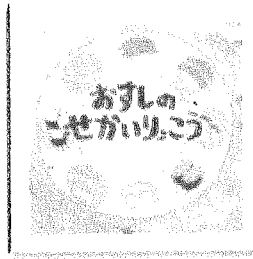
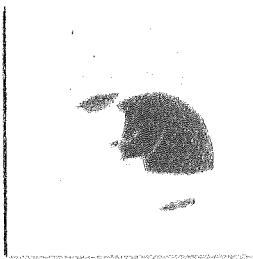
*3年生に絶対受ける

スズキコージ 学習研究社

「いつもちこくのおとこのこー

ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー」

ジョン・バーニンガムさく 谷川俊太郎訳



*世界に飛び出していくのは大好き

「おすしのせかいりょう」

竹下文子・文 鈴木まもる・絵
金の星社

「わゴムはどのくらいのびるかしら？」

マイク・サーラーぶん ジェリー・ジョイナーえ
きしだえりこ やく
ほるぷ出版

子どもたちとも先生とも一体になれる、おはなしの会は、毎月一回1, 2, 3年生に学年ごとに和室でしています。

TEA TIME はいかがですか？

雨の季節。おいしいお菓子と温かいお茶で素敵なひと時をすごしませんか。

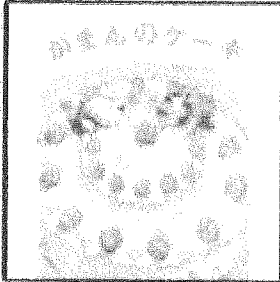
(南陵子ども文庫 川瀬 容子)

『ぐりとぐら』(こどものとも傑作集) なかがわりえこ・おおむらゆりこ 福音館



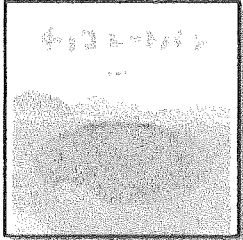
のねずみのぐりとぐらは、道におちていた大きな卵で大きなふんわりカステラを焼き上げます。甘い香りが森いっぱいに広がります。先日、息子の学校給食に「ぐりぐらのカステラ」が出ました。何日も前から楽しみに、そして当日も大満足。絵本と一緒にみんなのふんわり笑顔が目浮かびます。

『がまんのケーキ』 かがくいひろし 教育画劇



かめぞうとこいたろうはおいしそうなケーキを目の前に、よだれタラタラ。がまん、がまん、食べるのがまん。二人はお使いに行っているけろこさんの帰りを待っていられるでしょうか。やっぱり、三人そろってが、一番だよね。

『チョコレートパン』 長 新太 福音館



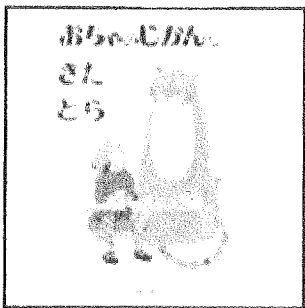
ふしぎ不思議で、おもしろい長さんの世界。

新しいチョコレートパンの作り方発見！

思わず、チョコレートの池に何かを浸したくなりました。

でも、やりすぎにはくれぐれもご注意を。しかられますよ。

『おちやのじかんにきたとら』 ジュディス・カー 童話館



ソフィーとおかあさんがお茶の時間にしようとしたら、

呼び鈴がなりました。扉を開けるとおなかをすかせたトラが。

どうやら、お茶の時間を一緒に過ごしたいようです。

さて、どんなお茶の時間になるのでしょうか。

トラが帰ってからもたいへん。でも、また来てほしいなあ。

みなさんはどんなお茶とお菓子を揃えて、ティータイムを過ごされますか。

我が家もそろそろ、おちやのじかんに・・・あっ、呼び鈴がなっています。どなたかしら？

それでは、良いひと時を。

ちよつとこわい?!ふしぎなお話

こぎつね文庫 狐野やよい

文庫に来る子たちは「おばけ」「ようかい」「ゆうれい」という話にひかれるようです。
こわさ半分のたのしい本。



『ばけものつかい』 川端誠・作 (クレヨンハウス)

おばけがでるといふ古いおやしきにひっこしてきたごいんきよ。ひょうばん
どおりに毎晩出てくる一つ目小僧やろくろっ首をこぎつかうので、おばけは
とうとう……。

『めっきらもつきら どおんどん』長谷川摂子・作

ふりやなな・画 (福音館書店)

夏の昼下がり。その日はあそぶともだちがだれもみあたらなかったかたは、
でたらめのうたをうたってみた。するとふしぎな穴にひきこまれ、そこで3
にんのおばけたちとあそんだのです。



『ものいうほね』 ウィリアム・スタイグ・作 せたていじ・訳 (評論社)

ぶたの少女パールはさんぼちゅうに、はなしをするほねとであい意気投合。
彼女の家に行くことになりました。ところがそのとちゅうキツネにつかま
りたべられそうになるのです。そんなパールをはげまし、間一髪ですくつ
たのがその「ものいうほね」でした。

『つきよのかいじゅう』 長新太・作 (佼成出版社)

かいじゅうがいるという山のおくのみずうみ。しゃしんをとるために何年
もテントをはってまつ男のまえに、ついにかいじゅうがあらわれたので
す。「ボコボコ ボコボコ ボコボコ ボン……」どんなかいじゅうな
のでしょうか。



『ねこが見た話』 たかどのほうこ・作 瓜南直子・画 (福音館書店)

のらねこが、まどからのぞいて見たいろんな話。床下のキノコを食べ、
夜になると小さくなってあそぶ家族。一週間、毎ばんちがうへやでねる
という社長がじぶんのみらいをみせてほしいと祈ったら……。こしか
けて言ったことがすべてほんとうになるという魔法のいす。効力はあと
2分。母親と息子たちは何をねがったのでしょうか。そしてさいごは、

ねこが死んでしまう話。でもふしぎなことがおこるのです。

この夏、京都国際交流会館で共催させていただいた「世界の絵本展」より

わかりあうってどんなこと？ 手をつなぐってどんなこと？ へいわってなんだろう？

「じろりじろり どうしてけんかになるの？」

作・絵 デイビット・マッキー 訳 はら しょう アリス館

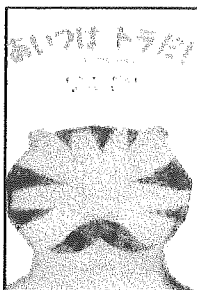


くろいゾウと白いゾウはお互いを嫌って戦争に。戦うことを好まないゾウたちはジャングルに逃げ込んだ。戦いつくしたゾウたちは滅び、何年か後に争いを好まない灰色のゾウたちがジャングルから出てきて平和に暮らしたのに……わずかな違いを見つけて憎み合いを始めてしまう。なぜだろう？ 平和を維持することの難しさを思わせられる。

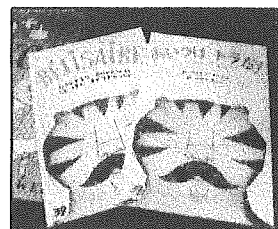


「あいつは トラだ！～ベリゼールの はなし～」

作/ ガエダン・トレムス 訳/ のぞか えつこ 講談社

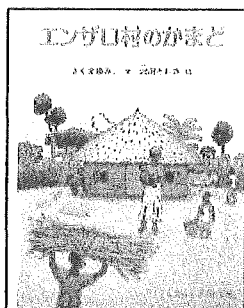


ベリゼールはトラのパンや。ベリゼールのパンはおいしいし、ベリゼールのお話は面白い。村の人たちはベリゼールが大好きだった。ある日、ベリゼーがトラの姿のまま舞台でお話を始めると、大人たちは……。どこでも起こりそうなベリゼールに降りかかった悲しくて厳しい出来事。ベリゼールを救うために、おいしいパンを食べるために、子ども達が考えたことは……。



「エンザロムらのかまど」

さくまゆみこ 文 沢田としき 絵 福音館

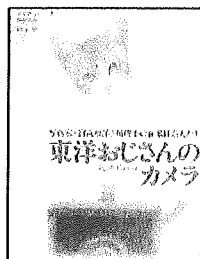


アフリカ、ケニアのエンザロムらにはエンザロ・ジコと呼ばれるかまどがあります。熱効率がよく、少ない薪で調理ができ、調理しながら飲み水も煮沸できます。沸かした水を飲めるようになり、赤ちゃんの死亡率が激減。このかまどを考えたのは岸田袈裟さんという日本人女性で、遠野のかまどをヒントにつくられました。岸田さんは抜群のアイデアと行動力でケニアの女性と子ども

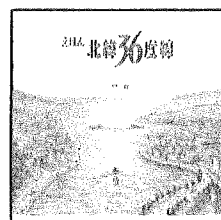
の生活改善に長年取り組んできました。 (『きみには関係ないことか』5集より抜粋)

「東洋おじさんのカメラ —写真家・宮武東洋と戦時下の在米日系人たち」

文 すずきじゅんいち 榎原のみ 絵 秋山泉 小学館



宮武東洋さんは戦時下、強制収容所の中をこっそり撮影していました。アメリカ兵として出征する日系人の息子たちの写真も……。鉛筆画の猫が柔らかな雰囲気を出しています。



「えほん北緯36度線」 小林豊 ポプラ社

空の上を東京から西へ北緯36度線をぐるっと一回り。同じ地球の上、人々の生活が描かれます。

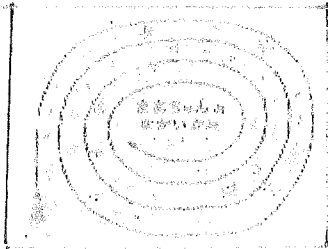
絵本からおとも楽しめる児童書まで、高樓方子さんの著作本を紹介します。

10月31日(水)其枝なかよし文庫では、高樓方子さんの講演会を開催！参加お待ちしております。

(其枝なかよし文庫 安田・山栴)

『まあちゃんのながいかみ』『まあちゃんのまほう』『まあちゃんのすてきなエプロン』

たかどのほうこ さく 福音館書店



おかつぱあまで赤いワンピース着たまあちゃん。

ながーいかみに憧れて、まあちゃんの広がる想像の世界とは？

まあちゃんのまほうでお母さんがためきに！？

すてきなエプロンでピクニックに出かけたまあちゃんに起こる楽しい出来事とは？ ユーモラスで楽しいまあちゃんシリーズ3冊です。

『つんつくせんせいとふしぎなりんご』 たかどうほうこさく・え フレーベル館

つんつく先生はつんつく園の子どもたちと、まっかなりんごのなった木まで

お散歩の途中、リスの集めたどんぐりを見つけ一人占めしてしまいます。

自由でオチャメでちっとも先生らしくないけれど、なぜかにくめない・・・

こんな先生いたらいいな～。(つんつくせんせいシリーズ ほか 6冊)



『紳士とオバケ氏』

たかどのほうこ 作 飯野和好 絵 フレーベル館

古い家に一人でくらす、それはそれはマジメなマジヒコ氏と同じ家に密かに住み続けていたオバケのオバケ氏。

ひよんなことから出会ってしまった二人が、心を通わせていく様子を楽しく描いています。

『小公女』 フランシス・ホジソン・バーネット 作 高樓方子 訳

エセル・フランクリン・ベッツ 画 福音館書店

父の急逝により、貧しい暮らしを強いられた少女セーラ。

どんな逆境にも気高く果敢に生きるセーラの方の源は、想像力でした。

100年読み継がれた古典の名作「小公女」が、画期的新訳によって

鮮やかによみがえった1冊です。



☆ 私の好きな本を選びました。

わたぼうし文庫 西野 利江



『アンジェールーある犬の物語』

ガブリエル・バンサン BL出版 1986

車から放り出された犬。走り去る車。必死に車をおいかけるが…ついにあきらめ、知らない町をさまよう…

一本の鉛筆がうみだす情景は文字さえも必要としない。この絵本に出会ったときの、衝撃をわすれません。絵の力強さに圧倒されました。

『よるのおさんぽ』 文 坂元 純 絵 金 斗 鉦

講談社 2004

初冬と思われる夜、パパとけんちゃんはおさんぽに出かけます。静かな公園、ブランコが音をたてる。自販機でジュースを買い、家にもどる。

亡き妻をおもいパパは涙します。けんちゃんは手にママを感じ、決して泣きません。切なく、胸が詰まります。



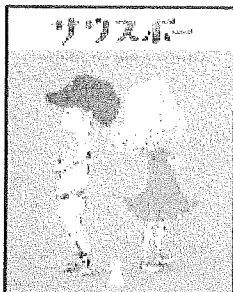
『サウスポー』

ジュディス・ヴィオースト作 金原 瑞人 訳

はた こうしろう 絵 文溪社 2011

ノートのはしやメモに書かれた手紙がジャネットとリチャードのふたりの間でかわされます。思春期の心の動きに、ドキドキさせられます。ふたりの表情が、手紙以上に物語ってくれます。色づかいもシンプルで素敵にしあがっています。

高校生の息子は「ジャネット、最高!!」ですって…



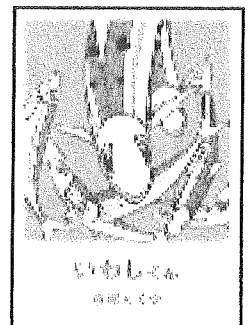
『いわしくん』

菅原 たくや

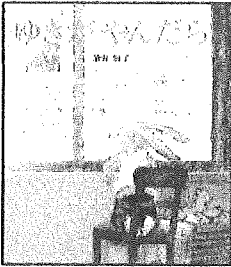
文化出版局 1993

とてもシンプルです。誰が見てもわかります。説明なんか必要ありません。心の奥に、なにかひとつ置いていってくれる…

そんなふうに感じます。



ふゆのえほん



『ゆきがやんだら』 酒井駒子 学習研究社 2005

雪が積もった朝、園はお休み。外は雪がいっぱい、外に出たいけれど、雪がやまない。ベランダに出ると静かで雪の降る音だけ。

夜になって雪がやみ、ママと一緒に外に出て、雪の上に足跡をつける。明日はパパが帰って来る。雪がやんだから。

静けさの中に、ほんわかとしたウサギの母子。

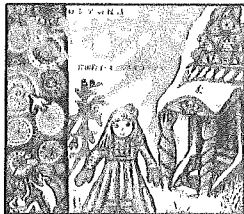


『はいたかのふゆ』 手島圭三郎 リブリオ出版 2002

手島さんの版画で、“はいたか”の雄姿が際立っている。獲物を捕まえようとするが逃げられ、逆にカラスに襲われ、何も捕まえられない“はいたか”。

獲物を得るにはどうすればよいのか。木の幹と一つになり待ち伏せをする。そして、やっと獲物を捕まえる。

冬の森の中で獲物を探す小さな鷹の姿や、周りの木々の様子などが、色を抑えた木版画で力強く描かれている。



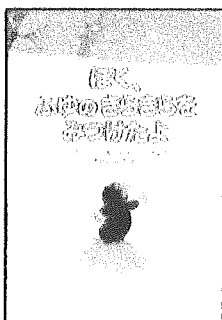
『ゆきむすめ』 岸田衿子・文 スズキコージ・絵 ビリケン出版 2005

ロシアの民話。子どもの好きな老夫婦は外で子どもたちが雪だるまを作るのを見ていた。そして、二人も小さい女の子の雪だるまを作った。歩き出したゆきむすめに服や靴を用意した。他の子どもたちと同じように遊んでいたが、春になると外で遊ばなくなった。そして女の子は焚火飛びをして、雲になって流れて行く。



『ぼうし』 ジャン・ブレット作 松井るり子訳 ほるぷ出版 2005

冬がくるのでリスが冬物を出して綱につるしていると、靴下が片方吹き飛ばされた。はりねずみが靴下を鼻先に突っ込んだら抜けなくなった。次々と動物たちがはりねずみの格好を笑うが…。何と、綱にぶら下がっていたリスの冬物が全部動物たちの頭に。ちょっと愉快な絵本。



『ぼく、ふゆのきらきらをみつけたよ』 J.エイメット文 V.キャンパン絵 おびかゆうこ訳 徳間書店 2006

生れてはじめて雪を見たモグラの子が坂道を転がり落ちた。ぶつかったところで見つけたのは宝石のようにキラキラするもの。魔法の宝物だと、大切に持って帰ったがなくなっていた。リス、ウサギ、ハリネズミたちが一緒にキラキラを見つけに行くと、そこには素敵なキラキラが。

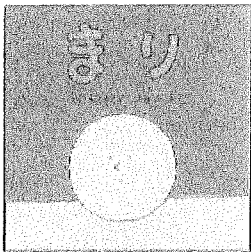
(池村奈津子)

☆昨秋の京庫連の講演会で村中季衣さんが読んで下さった本の中からご紹介します。
お話し、楽しかったですね。 西谷典子



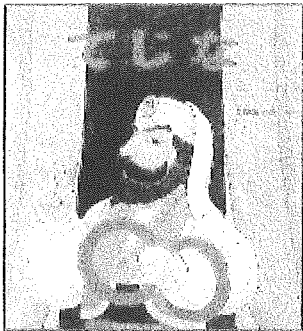
『ちいさなき』 神沢利子 高森登志夫 福音館

ここにも ここにも みつけた
ちいさな き あかちゃんの き
おかあさんの きは どこにいるの？
ここよ わたしが おかあさんですよ
数人が声に出して読まれましたが、みんな違った印象でした。
声に出して読むことは、とても奥深いことでした。



『まり』 谷川俊太郎 広瀬弦 クレヨンハウス

赤ちゃんをお膝に抱っこして、本を見せながら、赤ちゃんの耳の後ろからやさしく読んであげるのよ、と教わりました。
そうすれば赤ちゃんは安心ですね。読んであげる方も心地良いことでしょう。

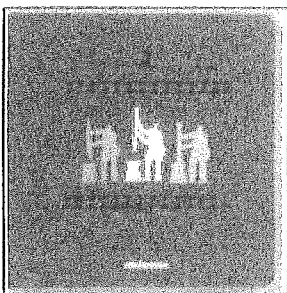
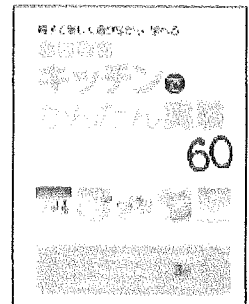


『てじな』 土屋富士夫 福音館

「あんどら、いんどら、うんどら～」のところ、「アンドラ、インドラ、アラマンドラ～」 その方が盛り上がるでしょ、と村中さん。
みんなで呪文を唱えると次々と手品が展開し、楽し～い！
以前、本の装丁がペーパーバックだったときには、子ども達から「もう一回やって！」とせがまれていたのが、ハードカバーに昇格したら「もう一回読んで！」と言われるようになったそうです。
なるほど、おもしろいですね。

『小学生のキッチンでかんたん実験 60』 学習研究社

キッチンにある15の材料を使った、3分でできる60の実験を紹介しています。
こういう本も上手く使えば読み聞かせに向く、目から鱗です！



『リズム』 真砂秀朗 ミキハウス

アフリカのリズムを言葉にした絵本です。
みんな立ち上がって、声に出して、声に身体をあずけてみる…。
身体がほぐれ、心がほぐれ、一体になる感じ…。
気持ち良いです。

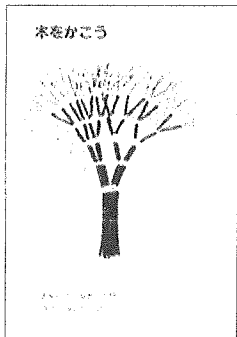
木の本

(京都市中央図書館児童図書室発行「じどうとしよしつだより」平成24年春号より抜粋)



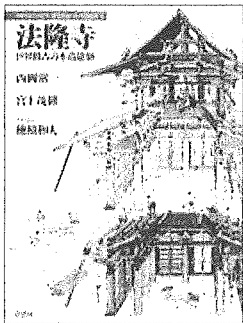
『かえでのジョニー』 アルヴィン・トゥレッセルト／文 ロジャー・デュボアザン／絵 晴海 耕平／訳 童話館出版

ある、春の日の昼さがり、かえでの葉のジョニーは芽をときほぐし、からだをのばします。ジョニーは、たくさんのちいさな葉や自然に囲まれています。やがて夏が来て、秋がきて、冬がきます。ジョニーのまわりの自然は、いろいろに変化しますが、ジョニーはいつも、“大切なこと”がよくわかっている葉っぱです。絵がとてもきれいです。



『木をかこう』 ブルーノ・ムナーリ／作 須賀 敦子／訳 至光社

木をかくには、かんたんな規則があります。これさえおぼえておけば、だれにでも、木はかけます。でも、規則どおりの木は、ほんとうには、どこにもないでしょう。そして、どこの家にも「かわりもの」が、たいていひとりはいるように、木にもかわたった枝が幹からよつきりとびだしたりもしています。これを読めば、きっと木をかいてみたくなりますよ。



『法隆寺 世界最古の木造建築』 西岡常一／著 宮上茂隆／著 穂積和夫／イラストレーション 草思社

日本で、千三百年前の木造建築が残っているのは、世界でもめずらしく、奇跡的なことです。それは、日本に質のよいヒノキがあったからです。世界の木造建築の中でも一番古いのが法隆寺です。その法隆寺がどのようにしてつくられたか、この本でときあかされています。イラストが美しく、わかりやすく工夫して描かれています。



『木の上のひみつ基地』 マーガレット・マーヒー／作 ジョン・ファーマン／絵 幾島幸子／訳 岩波書店

ピートは、オーストラリアから、親せきのたくさん住んでいるニュージーランドに引っ越してきます。年の近いいとこ達は木の上にひみつ基地を作り、フォーチュン団というゲリラ組織を作って遊んでいます。仲間になりたいピートはひみつ基地に乗りこみますが、あまり歓迎されていないみたい…。フォーチュン団の仲間になるにはテストがあるということです。最初のテストは簡単にクリアしたピートですが、二番目のテストは墓地で一晩眠ること！そこでピートが見たものは…。続編もあります。

(杉丸あゆみ)